



No. 20

2014 年 7 月号
 一般社団法人日本書字文化協会
 代表理事・会長：大平 恵理
 編集長：佐藤 貴子
 〒164-0001
 東京都中野区中野 2-13-26
 第一岡ビル 3 階
 TEL 03-6304-8212
 info@syobunkyo.org

《目次》

- ◇ 立腰教育・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◇ 第 3 回総合大会・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◇ 書文協ホームページ陳列棚の設置・・・・・・・・ 4
- ◇ えんぴつ・ペン文字練習帳・・・・・・・・・・5・6・7
- ◇ 小 1 から毛筆を・・・・・・・・・・・・・ 8

第3回書写書道総合大会開催

評価の観点を明示

書文協と文字・活字文化推進機構共催、文部科学省、小、中、高校長会、先生の教科研究団体・全日本書写書道教育研究会（全書研）後援の第3回全国書写書道総合大会は今夏も全国各地で開かれます。毛筆の実力を競う「学生書写書道展」硬筆の大規模な「全国硬筆コンクール」と、小学3年生以下に参加を限定した「ひらがな。かきかたコンクール」の3つで構成され、毛筆、硬筆のバランスある学びを推進しま

す。

文部科学大臣賞が硬毛双方とも成績が優秀な作品に贈られ、また各コンクールの最優秀作品にも贈られます。

大会の参加が書写書道の学びにつながる事が書文協の方針で、なぜその作品の優劣が分かれるのか、を明示した「評価の観点」が、コンクール課題について示されます。参考手本（課題）を公表して開催し、同時に評価の観点を明示する書文協のコンクールの目的と自負をぜひご理解ください。

個人席書き承認

書文協の席書き4ルールを守れば、一人で行った席書きも、席書きの部応募作品として認めることになりました。席書きは学びの上で大変重要で効果がありますが、遠隔地などの事情を考慮したものです。（関連記事は3面）



大平 恵理

書写書道も息遣いであり、字はそこから生まれると痛感しています▼立腰教育の千葉の幼稚園、福岡の保育園を視察しました。その教育が生む園全体に満ちる清々しい空気に感動しました。▼「腰骨」から生まれる息遣いも意識して、今、書写書道に取り組みたいと思っています。

（書文協会長）

立腰教育

仁愛保育園（福岡市）を視察

夏の福岡錬成会・講習会が開かれた前日の6月13日（金）、書文協の大平恵理会長と九州地区の書写書道の先生方3人が、福岡市城南区の私立「仁愛保育園」を視察しました。同園は、哲学者で教育者の故・森信三先生の教えを守る立腰（りつよう）教育の実践園として全国に知られています。

大平は千葉県のたきのい幼稚園の園長に「なぜ、ひらがな・かきかたコンクールでいつも良い成績をとれるのか？」と聞く中で、同幼稚園が立腰教育の実践園であることを知りました。その園長が「福岡のあの園はすばらしい」と、仁愛保育園の石橋富知子園長を紹介したのでした。

視察は給食をはさむ2時間。同園は定員310人の大規模園で、4人はいろいろな場面に遭遇し、驚いたものでした。帰京した大平は書文協の先生方に「園、教室全体の空気はすがすがしいものを感じた。決して画一的でも強制的でもなかった」という印象を強く語りました。技術、習慣を超えたところにかもし出される空気に着目した印象です。

立腰、つまり腰骨を立てることは難しいことではありません。それを生活習慣になるまで幼児に教えることは並大抵ではありませんが、技術的には書写書道に有効である、

との印象を大平会長は得ました。書は息遣い、つまり姿勢であり、上手な字はそれらが定まって実現する、という持論の大平は、立腰教育の可能性を認めました。ただ、書文協の教学にすぐに据える、というわけではありません。よく研究して、まずは指導者たちに伝えることから始める方針です。

立腰教育については、この機関紙でも時おりお伝えしたいと思います。いろいろなご意見をお寄せください（編集部）。

「人生2度なし」 森信三先生

立腰教育の提唱者、森信三氏は愛知県半田市の出身。教科書に載る定番として有名な、「ごんぎつね」の著者、新美南吉の記念館に、森信三記念室が設けられています。その知多半島に向けての通り道、豊橋市にある吉見出版を6月末に書文協指導者らが尋ねた際、吉見雅博社長との間で森信三論に花が咲きました。吉見社長は「人生2度なし」という森氏の名言を熱く語りました。実践人を目指した森氏ファンは数多いようです。

京都大学の西田幾多郎門下である哲学者、森氏は戦前、戦後ともに活躍しました。編集部としては、立腰教育と共に森氏の軌跡を追うことになりそうです。

第 3 回総合大会

硬・毛締め切りは 9 月 15 日

「ひら・かき」は 7 月 31 日

第 3 回書写書道総合大会の応募作品受付が始まりました。応募締め切りは、小学 3 年生以下限定の「ひらがな・かきかたコンクール」は 7 月 31 日「全国学生書写書道展」と「全国硬筆コンクール」は共に 9 月 15 日で、同日必着です。流感など特別の事情があるときは事務局にご相談ください。可能な限り要望に応えます。

現在、各地で錬成会が開かれています。普段の地域講習会と違って、コンクール課題の練習をするもので、課題文を書く上でどの点に注意するか「評価の観点」について解説されます。

書文協のコンクールは、参考手本が発表され、書写書道教育の権威者で構成する中央審査委員会で厳正な審査が行われます。さらに、課題について、作品を書く上でどの点に注意するべきか「評価の観点」が明示されます。コンクールへの参加が書写書道の学びに結びつくのです。賞は学びの通過点記録に過ぎません。ゆったりとした気持ちでコンクールにご参加ください。

*各地の席書き大会への個人参加について各団体は、書文協本部とまず連絡をとるようにご案内下さい。

各地錬成会案内

福岡 6 月 15 日(日) 福岡市南市民センター
 宇都宮 6 月 29 日(日) 宇都宮中央生涯学習センター
 名古屋 7 月 6 日(日) 中村生涯学習センター
 大阪 7 月 12 日(土) 13 日(日) ココプラザ
 東京 7 月 26 日(土) 27 日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

26 年度席書き大会場

No.	地区名	席書日	席書開始時間	会場
1	東京墨田	平成 26 年 7 月 13 日 21 日	未定	墨田区横川 2 丁目会館
2	兵庫明石	平成 26 年 7 月 19 日	14:30	明石市立市民ホール
3	静岡沼津	平成 26 年 7 月 31 日	10:00	杉山バラ園 エルローザ
4	愛媛松山	平成 26 年 7 月 30 日	11:00	未定
5	三重四日市	平成 26 年 8 月 10 日	10:30	あさけプラザ 体育館
6	東京渋谷	平成 26 年 8 月 3 日	10:00	国立オリンピック記念青 少年総合センターセンター棟 101
7	高知	平成 26 年 8 月 13 日	10:00	田野町ふれあいセンター
8	和歌山	平成 26 年 8 月 23 日	10:00	和歌山東部 コミュニティセンター
9	徳島	平成 26 年 8 月 25 日	10:00	徳島市滑東 コミュニティセンター
10	北海道道北	平成 26 年 8 月 30 日	未定	未定
11	福岡中央	平成 26 年 8 月 30 日	未定	未定
12	群馬桐生	平成 26 年 8 月 31 日	未定	未定
13	大阪中央	平成 26 年 8 月 31 日	午前	天王寺区民センター
14	北大阪	平成 26 年 8 月 31 日	午後	グランドハイパ 1 番館集会室
15	東京足立	平成 26 年 9 月 7 日	10:00	いこう書写教室
16	大分杵築	未定		

書文協ホームページ

陳列棚を設置、テキスト紹介

書文協ではこのほど、ホームページ上に教材教具の陳列棚を設けました。主要事業の検定改革を進める中で、新しいテキストが増えるなど、書写書道を学ぶ皆様に書文協の教材、教具をよく知っていただくにはいけません。また、近い将来、吉見出版社に基本的に教材教具の物販を委託することを見据えた陳列棚としました。ご利用ください。

書文協の文字の学びに検定受験があります。検定については、ホームページの「検定」コーナーをご覧ください。

書文協では現在、検定制度の改革を行っています。もつと整理し、学びやすく、早く学べるようにすると同時に、文字に親しむことで言葉の力が身につくよう、また、文字と初めて接する幼児が書写書道を学び易くします。

書写書道硬筆課題検定（新硬筆検定）を新設

まず、えんぴつやペンで書く硬筆検定の改革に取り組んでいます。新学習指導要領によって、学校教育の目標が言語能力を養うことに置かれ、硬筆書道への期待が大きく膨らんでいます。改革では、楷書と行書の2コースを一本化して「書写書道硬筆課題検定（新硬筆検定）」を新設、手紙文で一般的に使われる行書は第7巻から始まるようにしました。

会員制度についても説明

書文協会員規則（25年4月1日制定） 抜粋

第四条（会員の種別） 普通会员、学校会員、事業会員、個人会員および賛助会員を置く。

第七条（年会費）

（普通会员は下の3コースから選択する）

コース	28年度からの年会費	当面の年会費	減額率 （減額率は大会出品 検定受験料等）
A	6,000円	3,000円	5%
B	12,000円	6,000円	10%
C	24,000円	12,000円	15%
学校 会員	無料		10%
一般 会員	年額1,200円		
賛助 会員	1口 10,000円から		

第八条（特典）

1 会員は書写書道研鑽のために書文協の諸事業（生徒講習会、指導者研修、教材・教具適用など）を優先して利用することができる。

（中略）

3 普通会员、学校会員は大会出品の際に団体審査（大会出品料10%減）をすることができる。

*（注）教材は減額率でなく、より値引き幅の多い卸値が適用されます。

新検定テキストを販売

ホームページ

陳列棚



書文協ホームページ (<http://bunkyo.org>) に設けた書文協関連教具、教材の陳列棚では当面、新検定テキスト各巻を詳しく紹介していきます。割引が適用される会員の申し込み欄もございます。ぜひ、ご覧ください。

言葉の力も養う

平成26年6月現在、本シリーズ第1～4巻まで販売されています。8月に幼児編上下2冊、9月までに本シリーズ第7巻まで、平成27年3月までに15巻まで販売の予定です。

各巻共通

定価 648円（本体600円）

本文 64ページ

著者 大平 恵理

発行 日本書字文化協会出版部



えんぴつ・ペン文字練習帳共通事項

（指導要領準拠）各巻とも標準学年制です。1巻は小学1年生標準対応。ルビなしで使う漢字は小学校1年生までです。学習指導要領の学年に対応しています。大人も1巻からの学習をお勧めします。

（用紙）清書スペースは課題によって異なります。1、2巻は6マス3行。3、4巻は7マス5行。練習帳のスペースも同様になっています。検定受検、大会出品共通で使える硬筆共通清書用紙は1枚10円で発売しています。

（3部構成）各巻とも3部構成。1部は書写の基礎知識。第2部は検定課題編で各巻8課題ずつ、このほか長文の特別課題が収録されています。1課題当たり4ページ構成で、練習法は課題文をなぞり書き、白いマスへの練習スペースなどが続きます。第3部は教育漢字各学年配当漢字が掲載され、筆順、音訓の読み方が示され、字マス、白マスで練習できます。

（評価の観点）作品がどう評価されるかをポイント指導した「評価の観点」が記されています。①止め、はね、はらい②むすび③つき方④長さ⑤むき⑥曲がり⑦あき⑧横線、などの項目が続きます。各課題で出てくるひらがなが題材です。

（言語活動）指導要領が掲げる各学年言語活動例に沿って課題文が配列されています。主語述語関係など文法の他、古典や文語調作品なども順次登場します。

練習帳第4巻

表紙の色が3巻までの黄色からピンクに変わります。1部で「手書き文字と活字」が取り上げられ、筆圧についても触れています。検定課題はNo.25〜32番。28番課題「ひさかたの光のどけき 春の日に 静心なく 花の散るらん」の「評価の観点」では「外形」が指導されます。「光」は正方形、「ん」は三角形、などの指導です。25番課題では「春はあけぼの」が登場。30番課題では調べ学習を取り上げた課題文が出てくるなど言語活動例が説明されます。配当漢字小学4年生は200文字。

幼児編上下は8月発売予定

たて、よこ、ななめ、まあるく、ぎざぎざ、えんぴつの持ち方、線を引く練習から始める幼児編は、幼稚園、保育園の



就学前の子どもたちが対象です。単なる早期教育を目指すのではなく、きれいで正確な文字を書く基本、言葉の力を養う基礎を作ります。挿絵は大坪寿美香さん。楽しい絵を見たり、塗ったりしながら学びを進めます。



「香」

気持ちを休める（リフレッシュさせる）手段は無数にある。旅行に出かける、スポーツをする、趣味に明け暮れる…どれも楽しいし、素敵な過ごし方だと思う。

その中で、書写書道は自分とも向き合えるもの。そして生み出すための環境づくりも楽しい。

書く内容によって水をつくり、筆と紙、硯と墨、文鎮を選ぶ。周りの道具を選んで置いただけでも気持ちは弾む。そしてゆったりゆったりと墨を擦る。用意の中で一番楽しい時間。

ゆっくりゆっくり…静けさの中に、墨の香が漂ってくる。気持ちが落ち着いていく。

時間をかけて擦った墨を筆に含ませ、紙に乗せる瞬間、「魂」が入っていく。文字が生まれる、自分の化身へと変化していく。そして時間を忘れ、何枚も何枚も納得のいくまで書き続ける。

周りに漂っていた「香」は部屋中、家じゅうに広まってく。よく「墨の匂いがする…」と言われるが、それだけその中に浸れている自分が嬉しいし、大好きである。

渡邊 啓子

全書研などが署名集め

小1から毛筆使用を

文科省に要領改訂を要望

全日本書写書道教育研究会など関係6団体が、小学校1年生から毛筆をできるように学習指導要領を変更するなどとする要望書を50万人の署名をつけて文部科学省に提出することになりました。現在、毛筆は3年生からとなっています。要望は抜本的な学校教育の変更を求めるもので、成人50万人署名は8月末達成を目標にしています。

都小書研で水筆実践報告

署名集めを推進している全書研の長野秀章理事長は、この流れの中で6月17日、東京都港区立芝小学校で行われた都小学校書写研究会の総会で講演しました。演題は「今、求められる書写教育の実践的課題」。この講演の一部として、東京学芸大学付属小金井小学校、箕理沙子教諭と同大学、細川太輔講師が「軟筆を用いた書写の実践」と題して講演しました。箕教諭は昨年後期、同小1年3組を対象に市販の水筆を使った授業を展開しました。

長野理事長は元文部科学省教科調査官。現行指導要領の改訂草稿段階から関わるなど、書写書道の学校教育大綱作りに加わりました。その後東京学芸大学教諭に戻り、現在書文協

中央審査委員も務めています。

小学校低学年書写について本紙で連載予定

毛筆は小学校3年生から使うとした指導要領は、昭和47（1972）年改訂要領からですが、課題も指摘されてきました。小学校低学年では筆が持ちにくいのは事実、低学年での毛筆一斉指導は学校現場では理論を超えて受け入れがたいのかも知れません。一方、学校と書塾では指導環境で違いがあるのも現実です。解決するべき問題は多々ありますが、小学校低学年の書写書道、とくに硬筆と毛筆の役割分担の見直しと明確化は必要で、本紙では同問題を数回、連載する方針。ご意見をお寄せください。

木製文鎮を売り出し 桐生・大澤木工所

群馬県桐生市の大澤木工所はこのほど、桐の木を使った文鎮を開発しました。中に鉛を入れて重さをつけていますが、書道具の革新といえるもの。東京・東銀座の群馬総合情報センターのお披露目でも評判はよく、すでに引き合いがきています。

